

令和6年度 脱炭素事業に関する村民説明会【日岐地区】開催要旨

日 時	令和6年7月9日(火) 午後6時00分～午後7時23分
	(第1部 村政懇談会：午後6時00分～6時50分) (第2部 脱炭素事業：午後6時50分～7時23分)
場 所	日岐生活改善センター
参加者	12名(村民11名、議員1名)

(第2部 脱炭素事業：午後6時50分～7時23分)

【質問者】

契約して自宅に太陽光パネルを設置した後に村内で引っ越して、新しい家に太陽光パネルを載せたい場合はどうなりますか。

【村長】

環境省からの補助金が出る期間の都合上、向こう4年半の間に新しい家を建てていただければ対応できます。10年または17年で契約した場合、契約の途中で引っ越して解約することになれば、違約金をいただきます。年数による計算方法がありますので、それに合わせた違約金をいただくことになります。

【質問者】

村内や村外に引っ越した場合、元の家に乗っている太陽光パネルや蓄電池はどうなりますか。

【村長】

引っ越した後、移住者が入られた場合は、その移住者の方がいくさかてらすと契約いただければ違約金は発生しないかと思えます。個々の事情については、いくさかてらすでご相談に乗りながら対応いたします。

【質問者】

4年以内に村内で引っ越した場合だと、今自分の家にあるパネルを外して次の家に持っていく訳ではなくて、前の家のパネルはケースバイケースで処理されて、次の新しい家には新しく付けてもらうという形でしょうか。

**【村長】**

そういうことです。新しい家を建てて、古い家が壊される場合も同様です。そういった場合は完全なる解約ですので、違約金が発生します。向こう4年半のうちに契約したいというお話があれば、村に住んでいる方でプランの対象になる方は契約を続けていきますし、常にいくさかてらすとしては申し込みを受け付けていきます。

**【質問者】**

つまり引っ越しの前後で契約し直すということですか。前の家の契約は解約して違約金を払い、新しい家でまた契約し直すことになりますか。

**【村長】**

前の家が空き家になり、誰も住むことがないのであれば、違約金が発生することになります。設置した太陽光パネルはいくさかてらすで撤去します。誰かがその家に入居されて、PPA契約を結んでいただけるのであれば、違約金は発生しません。

**【質問者】**

だとすれば、その4年半以内に村内で引っ越し予定がある場合は、最初の家での契約はせず、引っ越してから契約したほうが良いということですか。

**【村長】**

その通りです。早く新しい家を建てていただければ、いくさかてらすで太陽光パネルと蓄電池を設置できます。

**【質問者】**

電力が不足したときは外部からの供給に切り替わるとは思いますが、使っている側は切り替わりを意識したり、一瞬の停電が起きたりしますか。また外部からの供給が長引いたり、故障があったりしたときに電気料金は高くなりますか。

**【村長】**

太陽光発電が利用できない、もしくは蓄電池残量が無い時間帯は、いくさかてらすが外部から電力を購入しますが、常に中部電力の電線と繋がっていますので、切替りも分かりませんし、停電も起きません。また、電気料金の変動することはありません。中部電力などでは再エネ賦課金や燃料調整費の変動が時々ありますが、いくさかてらすではありませ

ん。なるべく再生可能エネルギーとして発電し、いくさかてらすから供給したいと思いません。

**【質問者】**

小水力発電の工事について、今度湯上へ行く途中に発電所を作るということで、あの辺りの道路は結構狭くてカーブもきついのですが、工事に合わせて拡幅工事や整備をする予定はありますか。

**【村長】**

小水力発電をどのような形にするか、昨年度から検討してきましたがまだ検討段階であり、河川協議等も続けていかなければなりません。工事に入るのはまだ先ですので、地元の皆さんにもご説明をしながらご理解をいただいて工事を進めていきたいと思えます。

**【質問者】**

蓄電池について、主にどのような使い方を想定しているのでしょうか。

**【村長】**

昼間は太陽光パネルで発電した電気を蓄電池に貯めて、貯めた電気を夜に使います。そして、翌日になったら利用して減った分を昼間に蓄電します。その繰り返し蓄電池の基本的な使い方になります。蓄電池の容量は約16kWhを予定しています。その詳細や、どのくらいの電気の使い方でのどのくらい持つのかなども、次回の『龍と子』でお示ししたいと思っています。

**【質問者】**

村で推進している木質ストーブなどの補助の利用者が増えれば、資料の8ページにある1,200枚のパネルの必要枚数は減るのでしょうか。

**【村長】**

村としては2030年までに民生部門においてゼロカーボンを実現するという目標があり、木質ストーブなどでなるべくCO2の排出削減をしたいと考えています。そして、なるべく多くのご家庭に太陽光パネルを載せられれば、野立ての太陽光パネルは減らせますし、皆さんが省エネ家電に移行したり、EV車に変更したりすれば、それもCO2排出の削減につながると考えられます。

**【質問者】**

雇用が増えるのは歓迎すべきことですが、企業規模に対して見込んでいるフルタイム雇用の人数が寂しいという印象があります。

**【村長】**

いくさかてらすでは、3人の常勤とパートの方くらいが適当と考えていますが、野立てパネルの草刈りにシルバー人材を活用することもできますし、検討している森林整備の方面で林業従事者ができて生計が立てられるようになれば、それも一つの雇用に繋がります。他にも波及を期待することはありますが、いくさかてらすも経営していかなければならず、雇用するには人件費もかかりますので、運営していきながらなるべく雇用創出に繋がっていきたいと思います。

**【質問者】**

いくさかてらすの事業とは関係なくとも、ゼロカーボンを理念とする会社を設立したい人を外部から募集して、新しい雇用を生むような仕組みなどが、ゼロカーボンに絡めてできるよになると良いのではと思いました。

**【村長】**

今月、虎ノ門ヒルズにて生坂村の紹介をする予定です。観光庁の「第2のふるさとプロジェクト」事業の一環として生坂村の取り組みを紹介できるものですが、出席される方々も錚々たる顔ぶれです。そこでまず「第2のふるさとプロジェクト」への参加を通じて村の自然を感じていただき、企業版ふるさと納税に繋がっていきたいと考えています。

**【質問者】**

太陽光パネルの1枚あたりの重量は決まっているのでしょうか。

**【エコロミ】**

21kgです。

**【質問者】**

民家への太陽光パネルの導入補助があと4年以内とされていますが、この事業が有名となつて村に移住者が増えた場合、移住した人たちが5年目・6年目だった場合はどうなりま

すか。太陽光発電をしている家庭を見てすごいと思って移住したのに、その人たちにはパネルの補助は出来ないのでしょうか。

**【村長】**

これからの5年間は、3分の2を環境省から補助金をいただき、3分の1をいくさかてらすで賄うという事業を行っていきます。キャッシュフローを考えたうえで、そのような嬉しい申し込みがあれば、協議しながら動向を見て検討させていただきます。